

東京高速道路（KK線）再生プロジェクトにおける「共創プラットフォーム」の 新たなパートナーとして4名の専門家を起用しました

東京高速道路株式会社（本社：東京都中央区）は、東京高速道路（KK線）再生プロジェクトにおいて多領域の専門家が共創する場「共創プラットフォーム」の新たなパートナーとして、グラフィックデザイナー色部義昭氏、プロダクトデザイナー倉本仁氏、コピーライター小西利行氏、建築家永山祐子氏の4名を起用いたしました。

弊社は、東京都の方針に基づき、自動車専用の道路を歩行者中心の公共的空間へ再生し、次世代の都市インフラを生み出す事業に取り組んでおります。既存施設を再生する取り組みにおいては、東京都や地元3区（千代田区、中央区、港区）、周辺の地域団体との連携など、関係者と共創することを基本に検討を進めてまいりました。

2024年4月には、KK線再生プロジェクト全体を通してコミットメントするコンダクター（指揮者）と、多領域の専門家がパートナーとして必要な領域・検討フェーズに応じてフレキシブルに関わり、共創する場「共創プラットフォーム」を組成し、その牽引役であるコンダクターにパノラマティクス主宰齋藤精一氏を起用いたしました。

このたび、新たに4名の専門家を共創プラットフォームのパートナーとして起用し、共創することによって、これまでにない新しい公共的空間の仕組みを企画検討し、さらなる価値向上を推進すると共に、先進的で発信力を持った事業推進デザインと検討プロセスの透明性を実現してまいります。

本日（11月15日）開催したKK線再生プロジェクトカンファレンスにおいて、新メンバー4名を皆様にお披露目すると共に、共創プラットフォームのパートナーとしての対外的な初仕事となったクロストークでは、それぞれの専門領域の観点からKK線上部空間のポテンシャルなどについて大いに語って頂きました。

2025年4月のKK線廃止（東銀座出口を除く）を目前に、いよいよKK線再生プロジェクトが本格始動いたしますが、共創プラットフォームを中心に、引き続き東京都をはじめ、地元3区（千代田区、中央区、港区）、周辺の地域団体など様々な方との連携、共創を通じて、都心の真ん中にありながら、緑とふれあい、誰もが心地よく過ごせる場を創出し、ひと・まち・環境をつなぐ『グリーンインフラ』として、東京に新しい価値や魅力を加え、世界に注目される観光拠点を目指してまいります。



東京高速道路（KK線）再生事業に関するお問い合わせ先：

東京高速道路株式会社プロジェクト推進室

【KK線再生プロジェクト紹介 WEB ページ】

e-mail : kksen@tokyo-kousoku.co.jp

<https://www.kk-saisei.com/>



■ 共創プラットフォーム新メンバー

■ グラフィックデザイナー 色部 義昭 氏 プロフィール



株式会社日本デザインセンターにて色部デザイン研究所を主宰。グラフィックデザインをベースに平面から立体、空間、映像まで幅広くデザインを展開。AGI メンバー、日本デザインコミッティー理事、東京 ADC 会員。東京藝術大学非常勤講師。主な仕事に Osaka Metro の CI、国立公園、家具ブランド kettal などのブランディング、市原湖畔美術館、東京都現代美術館などの公共施設のサイン計画、Sony Park 展などの展覧会のグラフィックデザイン、アルヴァ・アアルト「もうひとつの自然」のブックデザインなどがある。現在、2025 年大阪関西万博にて日本政府館のアートディレクションを担当。主な受賞歴に亀倉雄策賞、ADC 賞、SDA サインデザイン大賞（経済産業大臣賞）、One Show Design ゴールドペンシルなどがある。

■ プロダクトデザイナー 倉本 仁 氏 プロフィール



1976 年 兵庫県生まれ。家電メーカーのインハウスデザイナーを経て、2008 年に JINKURAMOTO STUDIO を設立。プロジェクトのコンセプトやストーリーを明快な造形表現で伝えるアプローチで家具、家電製品、アイウェアから自動車まで多彩なジャンルのデザイン開発に携わる。素材や材料を直に触りながら機能や構造の試行錯誤を繰り返す実践的な開発プロセスを重視し、プロトタイピングが行われている自身の「スタジオ」は常にインスピレーションと発見に溢れている。iF Design Award、Good Design 賞、Red Dot Design Award など受賞多数。2023 年より Good Design 賞副審査委員長。

■ コピーライター 小西 利行 氏 プロフィール



©川口宗道

POOL INC. クリエイティブ・ディレクター／コピーライター。CM 制作から、街づくりや国の戦略構築も行う。「伊右衛門」「PlayStation」「モノより思い出。」などヒット CM 多数。多くの企業の CI などブランディングも手掛ける。2017 年に経済産業省と共に「プレミアムフライデー」を発案。STARBUCKS 「47 Jimoto frappuccino」「#STRAWBERRYVERYMUCHIFRAPPUCINO」などをプロデュース。2019 年に京都のホテル「GOOD NATURE STATION」、2020 年立川「GREEN SPRINGS」などをプロデュース。グッドデザイン賞審査員、ドバイ万博日本館の CREATIVE ADVISER を担当。話題のハンバーグ店「挽肉と米」オーナー兼クリエイティブディレクターでもある。

■ 建築家 永山 祐子 氏 プロフィール



1975 年東京生まれ。1998 年昭和女子大学生生活美学科卒業。1998 年青木淳建築計画事務所勤務。2002 年永山祐子建築設計設立。2020 年武蔵野美術大学客員教授着任。2023 年よりグッドデザイン賞審査副委員長。主な仕事、「LOUIS VUITTON 大丸京都店」「豊島横尾館」「女神の森セントラルガーデン」「ドバイ国際博覧会日本館」「東急歌舞伎町タワー」など。JIA 新人賞(2014)、山梨県建築文化賞、東京建築賞優秀賞(2018)、照明学会照明デザイン賞最優秀賞(2021)、World Architecture Festival Highly Commended(2022)など。現在、2025 年大阪・関西万博「パナソニックグループパビリオン『ノモの国』」と「ウーマンズパビリオン in collaboration with Cartier」、Torch Tower などの計画が進行中。